

「新しい日本語能力試験」、いよいよ開始 7月4日、2010年第1回日本語能力試験に 国内外26万人以上が挑戦します。

「日本語能力試験」は、日本語を母語としない人を対象に、日本語能力を測定し認定することを目的として、1984年に始まりました。国内は(財)日本国際教育支援協会が、海外*は国際交流基金(ジャパンファウンデーション)が現地機関の協力を得て実施しています(*台湾の実施は、(財)交流協会)。2009年度は国内33都道府県、海外53ヶ国・地域で実施、のべ77万人が受験しました。

2010年から、日本語能力試験は新しくなります。(詳細は次ページをご参照ください。) レベルを5レベルに増やし(N1が最高レベル) また、実際の場面の言語コミュニケーション能力を重視した内容に改定しました。

7月4日実施の第1回試験は、N1～N3の3上級レベルのみで主にアジアの80都市で実施します。第2回試験は2010年12月5日にN1～N5のすべてのレベルで、世界各地で実施を予定しています。

2010年第1回日本語能力試験 日本語能力試験公式サイト: <http://www.jlpt.jp/>

実施日 2010年7月4日(日)

実施会場 国内: 33都道府県
海外: 13の国・地域、計80都市
韓国(21都市) 中国(39都市、含香港) 台湾(3都市)
インドネシア(ジャカルタ) カンボジア(プノンペン) タイ(バンコク・チェンマイ)
ベトナム(ハノイ) インド(ニューデリー・ブネ・コルカタ・チェンナイ・ムンバイ)
ネパール(カトマンズ) バングラデシュ(ダッカ)
ニュージーランド(オークランド・ウェリントン・クライストチャーチ)
ポーランド(ワルシャワ) ロシア(ウラジオストク)

実施レベル N1～N3の3レベル

応募者数 第1回試験の総応募者数: 約26万2千人(国内: 約5.8万人、海外: 約20.4万人)
(2009年第1回(7月)・第2回(12月)の試験(いずれも旧試験)通算の応募者数は、約90万人(日本国内16万人、海外74万人)でした)

新しい日本語能力試験に関するお問い合わせ:

国際交流基金 日本語試験センター(日本語事業運営部 日本語試験チーム)

Tel: (03)5367-1021 Fax: (03)5367-1025 Email: jlptinfo@jpf.go.jp 担当: 高野(こうの) 金原(きんばら)

なお、日本国内における日本語能力試験実施についてのお問い合わせは、財団法人日本国際教育支援協会 事業部日本語教育普及課 日本語能力試験係 Tel: (03)5454-5215 Fax: (03)5454-5235 へお願いします。

新しい「日本語能力試験」：改定の4つのポイント

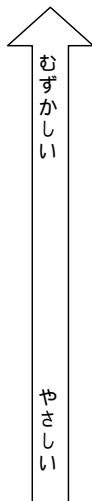
1. コミュニケーション能力をより重視した試験になります。

新試験では、日本語の文字や語彙、文法についてどのくらい知っているかだけでなく、その知識を実際のコミュニケーションで使えるかも大切だと考えます。そこで、「言語知識(文字・語彙・文法)」、 「読解」と「聴解」という試験科目によって測ります。新試験は、これらを合わせて、総合的に日本語のコミュニケーション能力を測る試験になっています。

2. レベルが5段階に増えて、自分に合ったレベルが選べるようになります。

旧試験のレベルは4段階(1級～4級)でした。新試験は5段階(N1～N5)です。新しくN3というレベルができました。旧試験の級で考えると、N3は2級と3級の間のレベルです。レベルが増えたので、受験者は自分に合ったレベルを選んで受験しやすくなります。

レベル	認定の目安	新旧レベルの対応(参考)
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる	合格ラインが旧試験の1級とほぼ同じ。ただし、旧試験の1級よりやや高めレベルまで測れるようになる
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級とほぼ同じレベル
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級と3級の間のレベル【新設】
N4	基本的な日本語を理解することができる	旧試験の3級とほぼ同じレベル
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる	旧試験の4級とほぼ同じレベル



3. 日本語の能力がより正確に測れるように、得点の出しかたが変わります。

新試験では、等化という方法を取り入れて、いつの回の試験でも同じ能力であれば同じ得点になる「尺度得点」になります。

4. 日本語を使ってどんなことができるかがイメージしやすくなります。

各レベルの合格者が、実際に日本語を使って、どのようなこと(読む・話す・聞く・書く)ができると考えているかを調査し、その結果をまとめて「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を発表します。このリストから、合格者やまわりの人々は「このレベルは実際の学習・生活・仕事の場面でどんなことができそうか」のイメージを持てるようになります。

《次回試験は12月5日(日)、N1 から N5 の全レベルです》